



LETTER OF CONFORMANCE

Statement No.: PRJN- 511491-2023-LOC01-JPN

三菱HCキャピタル株式会社 トランジションローン Mitsubishi HC Capital Inc. Transition Loan

三菱HCキャピタル株式会社(以下、「三菱HCキャピタル」)は、三菱UFJ銀行から調達するローン原資を、リースファイナンスとして東京瓦斯株式会社およびその子会社(以下、「東京ガスグループ」)が実施するトランジションプロジェクトに Enabler として資金供給する。

DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社(以下、「DNV」)は、三菱HCキャピタルのフレームワーク*に基づく当該リースファイナンスのトランジションファイナンスとしての適合性評価が三菱HCキャピタルにより適切に実施され、クライメート・トランジション・ファイナンス(資金用途特定型ローン)に関連する原則やガイドライン等に整合しており、Enabler として実行するリースファイナンスがトランジションファイナンスの適格性を有することを確認した。

*：当該フレームワークは、三菱HCキャピタルがトランジションローンの Enabler(投融資を含む原資調達の主体)として活動するために確立したものであり、その適格性について第三者評価機関(DNV)よりセカンド・パーティ・オピニオンを取得している(報告書番号：PRJN- 511491-2023-AST-JPN-01 2023年3月24日)。

本適合書簡は、以下のスコープに対して有効である：

- 対象フレームワーク：三菱HCキャピタル株式会社 トランジションローン・フレームワーク
- 対象取引：三菱HCキャピタルが Enabler として資金供給するリースファイナンス
- 対象取引先：東京ガスグループ (取引執行日：2023年3月24日)
- 対象活動(トランジションプロジェクト)：
 - 対象融資先が実施する太陽光発電プロジェクト

Place and date:
Kobe, 24 March, 2023

For the issuing office:
DNV ビジネス・アシュアランス・ジャパン株式会社
〒651-0087 兵庫県神戸市中央区御幸通 4-2-20

プロジェクトマネージャ
金留 正人

代表取締役社長
前田 直樹

About DNV

DNV ビジネスアシュアランスグループは独立した第三者評価機関として、本サービス提供に際し、三菱HCキャピタル株式会社とは事実及び認識においていかなる利害関係も持たないことを宣言します。

また、DNV の評価は三菱HCキャピタルから提供された情報が正確であることを前提としており、提供された情報の正確さについて監査やテストを行いません。また、この評価結果は、個別の投融資の財務的なパフォーマンス、いかなる投融資の価値、もしくは長期的な環境便益に関する保証を提供するものではありません。

DNV トランジションファイナンス 評価プロトコル(資金用途特定型)

DNV は三菱HCキャピタルへのアセスメントを通じ、Enabler として三菱HCキャピタルが実施した東京ガスグループに対する適合性評価が適切に行われ、当該リースファイナンスが適格性を有することを確認した。
 以下は、三菱HCキャピタルの適合性評価結果(又は既に外部評価機関により適格性が確認された東京ガスグループの取組み)の概要である。

要素	キーワード*	DNV 評価結果
CTF-1 資金調達者のクライメート・トランジション戦略とガバナンス	a) クライメート・トランジション戦略	・東京ガスグループの Compass2030 や Compass Action が、トランジション戦略として経済産業省のガス分野の技術ロードマップや日本ガス協会のカーボンニュートラル 2050 と整合的であることを確認。
	b) カーボンニュートラルに向けたガバナンス体制	・東京ガスが TCFD や事業活動を通じた SDGs への取組等を通じ、企業の気候変動戦略を実現するためのガバナンス体制を構築していることを確認。
CTF-2 ビジネスモデルにおける環境面のマテリアリティ(重要度)	c) 環境面の重要性	・東京ガスのガス供給及びエネルギー供給を通じた事業により「気候変動」へ取組むことが、東京ガスの環境面のマテリアリティであることを確認。
	d) 気候変動関連シナリオ	・東京ガスの TCFD を活用したシナリオ分析に基づくトランジションへの取り組みが、質的・量的に重要な環境改善効果(インパクト)に資することを確認。
CTF-3 科学的根拠のあるクライメート・トランジション戦略(目標と経路を含む)	e) 科学的根拠	・東京ガスが科学的根拠に基づいたパリ協定と整合する経済産業省や日本ガス協会の目標と整合する定量化された目標を設定していることを確認。
	f) 重要な排出スコープの考慮	・東京ガスが Scope1、2、3 及び削減貢献に関連する目標を定め、社会全体(供給サイド及び需要サイド)のカーボンニュートラルに貢献していく取組であることを確認。
CTF-4 実施の透明性	g) 投資計画	・東京ガスが 2030 年までに脱炭素を含む成長領域に約 2 兆円の投資を計画していることを確認。
	h) 成果とインパクト(公正な移行含む)	・東京ガスのトランジション戦略実行に必要な投資及びプロジェクトを社内管理体制及びプロセスに基づき、適切なタイムラインで実行することを確認。
	i) ファイナンスの実行・管理	・東京ガスがリースファイナンスにより調達した資金の実行・管理について次の資金用途特定型の要素の応じた仕組みと体制を構築していることを確認。

要素	キーワード*	DNV 評価結果
TL-1 調達資金の使途	a) 資金調達者のトランジション戦略との整合性	・対象活動(東京ガスが実施する太陽光発電プロジェクト)が、東京ガスの Compass Action の「ガス・電力の脱炭素化」に分類される「再エネ電源の拡大」に資する活動であり、資金調達者のトランジション戦略と整合していることを確認。 ・リースバック資産(高効率天然ガス発電設備)が、その特性・性能及び運用計画から、従来の火力平均と比較して相対的に CO ₂ 排出が少なく、社会の電力供給を支えながら、電力供給に起因する CO ₂ の削減に貢献することを確認。
	b) 環境改善効果	・対象活動により期待される環境改善効果は資金調達者により適切な指標と共に、定量的な効果(+CO ₂ /年)として評価されていることを確認。
TL-2 プロジェクトの評価と選定のプロセス	c) 確立された評価手順の適用	・DNV は、三菱HCキャピタルが Enabler としてトランジションローンを通じた東京ガスへの投資(リースファイナンス)に対する適合性を評価するため、確立した適合性評価プロセスを適用し、プロジェクトの与信判断、第三者評価機関によるトランジション・ファイナンス適合性評価結果、トランジションプロジェクト評価を適切に実施していることを確認(この適合書簡による評価も適合性評価プロセスに組み込まれている)。
	d) 環境及び社会への配慮	・対象プロジェクトが、三菱HCキャピタル及び東京ガスがフレームワーク等で定める除外クライテリアのいずれにも該当しないことを確認。
TL-3 調達資金の管理	e) 追跡管理方法	・DNV は、三菱HCキャピタル及び東京ガスが、トランジションローンにより調達した資金を内部プロセスにより適切に管理する方法を定めていることを確認。
	f) 未充当資金の管理運用方法	・DNV は、三菱HCキャピタル及び東京ガスに未充当資金が発生する場合、現金又は現金同等物で管理することを確認。
TL-4 レポートニング	g) 定期レポートの実施	・東京ガスは少なくともトランジションローンの資金充当が完了するまでの間、三菱HCキャピタルに対して、資金充当状況及び環境改善効果を報告する。三菱HCキャピタルはその内容を確認し、三菱 UFJ 銀行に報告する予定。

*キーワード：「クライメート・トランジション・ファイナンス・ハンドブック」(ICMA)や、「クライメート・トランジション・ファイナンスに関する基本指針」(金融庁、経済産業省、環境省)に基づく 4 要素や、トランジション・ファイナンスを実行・管理する上で必要な「資金用途特定型」「資金用途不特定型」のいずれかに応じた要素に基づく主要な確認事項を記載。詳細は、Enabler の内部評価手順により詳細が確認されていることを確認。